

プロが

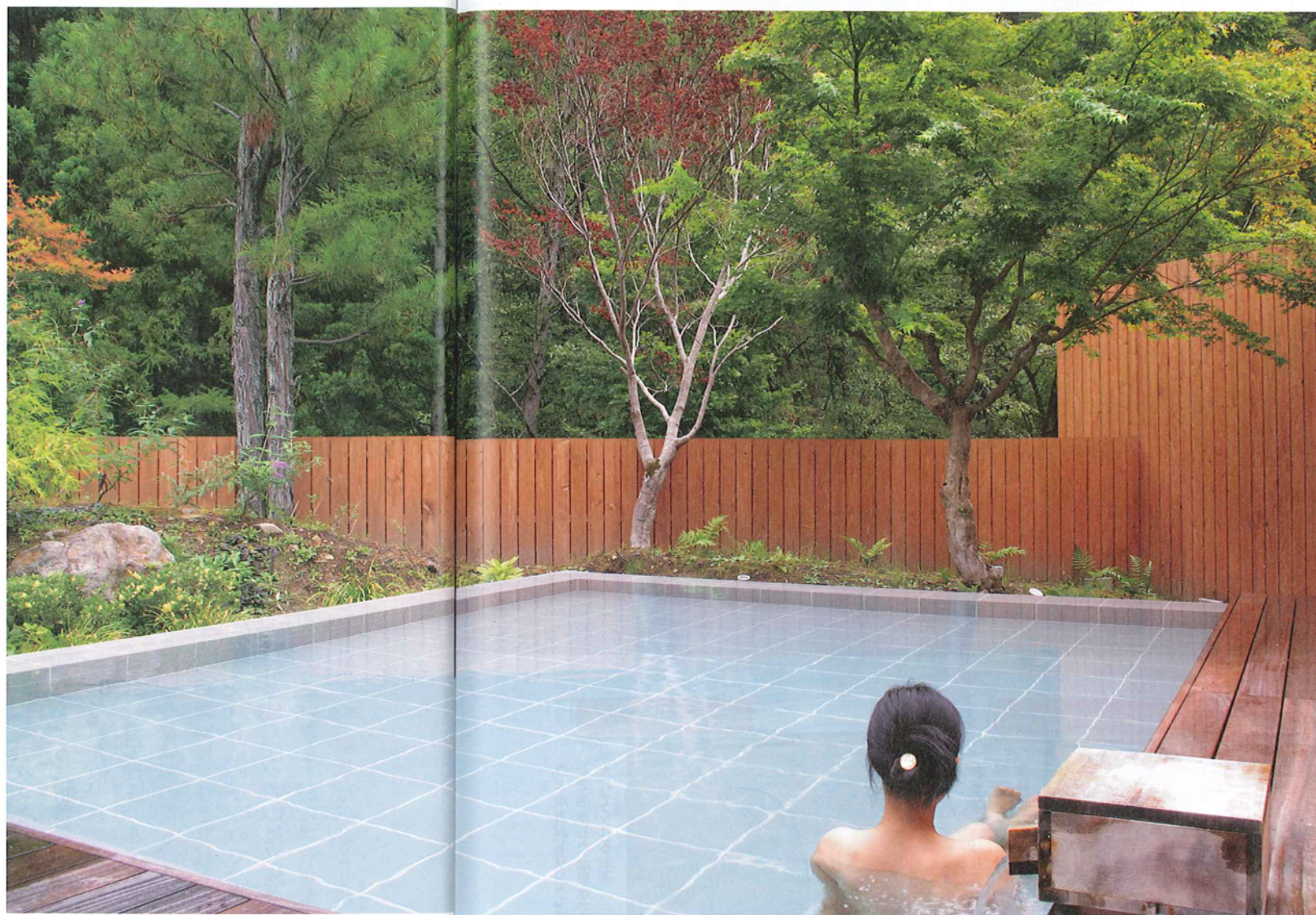
もう一度行きたい
温泉

岩手県花巻市
取材・文・撮影 蛙子舎

一度肌にまよえば忘れない湯

山の神温泉 幸迎館

岩造りの「とよさわ乃湯」。源泉は40～42度で、長湯しやすい



花巻市街から離れた山間に佇む一軒宿。自然と調和した庭もいい



連載「ローカルネタ帖」のライター・蛙子舎が

もう一度行きたい！

空を仰ぐ広々とした露天風呂で、森の空気と川音を感じながら、たっぷりかけ流しの湯に浸れば……肌が湯に包まれる感覚は忘れがたいもの。湯どころ花巻のなかで、とりわけ肌に合うと感じ、再訪を切望していた湯だ。

宮大工が丹念に仕上げた和室は、襖や欄間の細工にも技あり



木々に囲まれた「こもれば乃湯」。夜間のライトアップも魅力



南部鉄器をあしらった家具を配置。細部にまで意匠を凝らす

地場食材を豪華に取り入れた料理長おすすめの会席「華月膳」



昼食で気軽に立ち寄れるレストラン。朝夕の食事もここで



宿date

☎0198・38・5526 / 1泊2食9800円～ / 日帰り入浴600円(10:00～20:00受付) / 60室 / アルカリ性単純温泉 / 花巻市下シ沢字中野53-1 / 東北新幹線新花巻駅またはJR東北本線花巻駅から送迎バスで約35～50分。東北自動車道花巻南ICから約20分

が、旅の胃袋を満たしてくれる。

いよいよ、心待ちにしていた浴場へ。内湯に併設する露天風呂は、「とよさわ乃湯」「こもれば乃湯」の2カ所。いずれも源泉が異なる。ほのかな硫黄香を漂わせ湯船を満たすのは、源泉かけ流しで、とろみを帯びた湯。なでるように手を泳がせると「そうそう、この感じ！」。旧友に再会したような嬉しさがこみ上げる。たまたま湯船に身を沈めると、じんわりと湯が肌になじみ、気づけば小さな気泡をまとっていた。アルカリ性のpH値が高いから「まるで化粧水に浸かっているみたい」との声も。とろん、ぬるん、すべすべと三段階で楽しめる湯の感触は、一度体感すれば忘れられない。数年前に宿泊した際、この泉質にすっかり惚れこんで、朝に晩に何度も入浴したことを思い出す。湯をたぐり寄せるたびに、タブンタブンと溢れる音。贅沢な湯浴みから離れがたく、川風でほてりを冷ましながらいつ長湯してしまう。

湯上がり処で出会った常連客の男性は、隣町から車で40分かけてほぼ毎日訪れるという。「各地の温泉を巡ったなかでも、ここの湯は特別」と言いきつた。古希を迎えたとは思えない肌は、確かに爪の先までつやつや！ おじさまに敗北を認めつつ、もう一度、いや何度でも来ようと山の神に誓った。

秋から冬へと駆け足で季節が移ろう東北。厳しい寒さとは対極の、優しい温もりで心身を癒してくれる湯浴みは格別だ。「今日はどの湯につきさ行くべか」という贅沢な悩みは、東北人の自慢でもある。しかし、移動距離や時間の制約から行けぬまま、「もう一度行きたい温泉」がゴロゴロあることも事実。

かねて再訪を切望していた「山の神温泉」もそのひとつ。豊沢川沿いに湯宿が点在する花巻の奥座敷「花巻南温泉峡」のほぼ中間に位置する。この地に「山祇神社」があることから、「山の神（が居る地に湧いた）温泉」と名付けられたという。まさに山々に見守られていそうな情景の一軒宿だ。

開湯から十数年、「幸迎館」と名を変えて7年のまだ新しい湯宿ながら、すでに風格ある佇まい。宮大工が手がけた重厚な建物は、一朝一夕には成し得ない卓越した技を見せてくれる。格子模様の格天井が豪華なエントランスは圧巻だ。客室にも巧みな細工が施され、職人の心意気に感嘆するばかり。宿全体が木のぬくもりに包まれている。

滞在するほどに心地よさを感じる空間で、当地ならではの料理も味わいたい。いわて牛や白金豚といったブランド肉や、県内沿岸から届いた海の幸を、季節の野菜とともに。花巻特産の雑穀や、地場の食材を盛り込んだ会席料理